

様式 2

平成 30 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 静岡県立磐田北高等学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 I、V 】
2 実施対象者	静岡県立磐田北高等学校 1 学年 生徒287人 バレー部 生徒 16人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () 行事名 (「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」講演会) ② その他 (部活動指導) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックアスリートから高いオリンピズムを学ぶことにより、高いオリンピズム(精神、身体能力、友情、尊重、平和、平等など)を感じ、その後の人生に、チャレンジ、努力、社会貢献、国際的な視野、共生などの感覚を持つ。
5 取組内容	① 授業等を通して、オリンピックの歴史、競技種目、ルールやアスリートの努力、苦悩、生き方に関する内容を取り入れた。 ② オリンピックアスリートの講演会の開催。 佐野 優子 氏 (元女子バレーボール日本代表) 佐野 優子 (さの ゆうこ)  1979年 7月26日生まれ 大阪府高槻市出身 ・2008 年北京オリンピック ・2012 年ロンドンオリンピック 銅メダル ・元バレーボール女子日本代表 「2002 年、日本代表チームに初選出される。2006 年フランス RC カンヌを皮切りに、アゼルバイジャンやトルコなどの海外チームに在籍。欧州チャンピオンズリーグでは 2006 年にベストリベロ賞、2013 年にはベストレシーバー賞を受賞。また、2008 年北京オリンピック 5 位入賞、2010 年世界選手権銅メダル (32 年ぶり)、2012 年ロンドンオリンピック銅メダル (28 年ぶり) を獲得。2014 年ワールドグランプリでは大会 MVP に輝いた。」 現在は、バレーボールの普及活動や解説者として活躍中。 演題 「私のバレーボール人生 ～欲を持つことの大切さ」



仲間を大切に、周囲と一緒に高めあう大切さ。
小柄な体をどう生かしてチャンスをつかんだか。



自分がどうなりたいのか、どうしたいのかという欲を持つことが大事！



1年生、287人と記念撮影をしました。

生徒の感想

(13) HR

谷友をフことはあまりよくないと思、ていたけど、谷友は
もてはいけないものでないことが再確認できました。
谷友をもつことで人は成長できることに伸ばすことができる
ことを学びました。しかし谷友だけでなく練習も必要
であり、練習の中でも試合の中でも谷友をもちながら競技
し、取り組みぶることが大切なんだと思いました。
オリンピック、パラリンピックに出るまでの選手の厳しい
トレーニングの厳しさや落選などの話を聞いて、今の高校
生活ににつながる所もあったので参考にして残りの2年
間を過ごしていきたいと思います。

(14) HR

今日の講演会は自分の中で、とても貴重な体験でした。
2012年のロンドンオリンピック 日本女子バレーボールチームが
金メダルを取った試合を見ていた自分は、佐野さんが
来られたことと驚きました。オリンピック選手からお話を
きくことはとても貴重な機会だったので、この機会に「谷友をもつこと
の大切さ」がわかることができました。自分もいつか陸上競技
等でオリンピック出場という夢があるので、佐野さんのように、
どんなに辛いことがあっても、谷友を持ち続け、いつまで
自分の夢を追いかけたいと改めて思いやる
本当にありがとうございました。

中日新聞 2月20日



- ③ オリンピックアスリートによる部活動実技指導
サーブレシーブ・レシーブ動作の助言



6 主な成果

- ① 体育理論の中で、オリンピック・パラリンピックの歴史等に触れることで、2020年に向けて生徒の意識を高めることができた。
- ② オリンピック・パラリンピックに対する知識を高め、また、講演会では、努力すること、自信を持つこと、夢を持つことの大切さ、挫折やくじけそうになったときの経験談等を聞くことにより、今後の学生生活やその後の人生に大変有意義なものとなった。
- ③ 時間に限りがあったため、通常行っているレシーブ練習を見てもらい助言していただいた。具体的な助言をもらい、生徒たちは大変励みになったようである。チームのモチベーションアップにもなった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- ・国際パラリンピック委員会公認教材を授業で使用し、オリンピックムーブメントを肌で生徒に感じてもらえるようにした。
- ・講師選定が困難であったが、人脈を使い依頼した。

8主な課題等	学校全体として、委員会を設置する等、組織的に取組み、実施していく方がよかった。
9来年度以降の実施予定	未定 継続ということであれば、委員会を設置、事前・事後学習等も含め早期に、計画的に実践していく。